

札幌圏 わがまち元気企業

高品質自動車部品に誇り

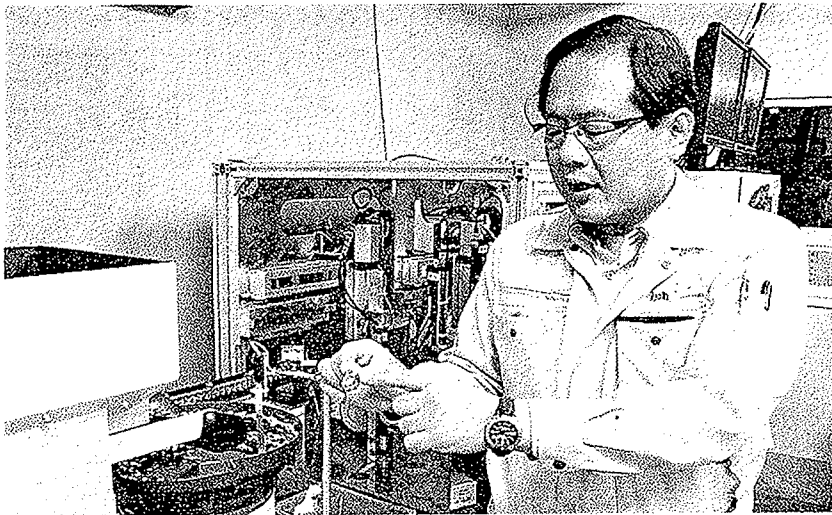
「キーン、キーン」。ドリルで金属柱から部品を削り出す切削機が30台以上並ぶ第1工場（約2500平方メートル）。切削音が24時間365日、鳴り響く。製造する部品は、ナットなどの自動車部品を中心に約300種類。直径1〜3センチの金属柱からプログラム通りに削り出され、7、8秒ごとに1個、ベルトコンベヤー上を流れる。

隣接する第2工場も合わせると、計70台の切削機で月350万個を製造。道内や名古屋、大阪のほか、タイや中国にも納品する。

主力は、車やバイクのエンジンの温度を測定して燃費性能を高めるための直径1・7センチ、長さ4センチの部品。月120万個を製造し、ホンダ製の車の大半に使用されている。

北新金属工業

＝恵庭市



自社製検査機の前で部品の説明をする益山社長

益山利二社長（50）は「日本の自動車産業を高く、品質な部品で支えている」と胸を張る。

2012年に、発注元

の要望に添ったきめ細かい部品作りを極めようと、へこみや内部のキス厚さなどをチェックする自社製の検査機を開発。発注元の仕様変更にも対応しつつ、高品質を保てるようになった。

昨年はトヨタ系列の自動車部品製造アイシン北海道（苫小牧）など、これまで取引のなかった企業からも発注が来るようになった。独自の検査機を開発できる技術力の高さや、品質管理の徹底ぶりが認められたためだ。年間売上高は13億〜16億円。今年は過去最高の16億5千万円を見込む。

1972年の創業。電

気ライターの点火装置や家庭用ガスレンジが主力だったが、76年ごろから自動車部品製造に力を入れ始めた。北海道で40年近く自動車部品を製造している企業は少なく、「自動車部品の先駆者」として地道にもつくりこに情熱を傾けてきた。5月には、中小企業庁の「はばたく中小企業・小規模事業者300社」にも選ばれた。

7月には、事業拡大を見込んで第3工場も完成する予定だ。「北海道は本州に比べると自動車産業は後進だが、ライバルが少ない分、腕の良い人材を確保しやすい。苫小牧港や新千歳空港に近い恵庭の地の利もある」と益山社長。「恵庭で100年続く企業になって、海外や本州に負けない部品を供給し続けたい」

（佐々木風人）

自社製検査機で管理徹底

恵庭市戸磯345の24。 ☎0123・32・5610。資本金2千万円。従業員56人。ホームページあり。